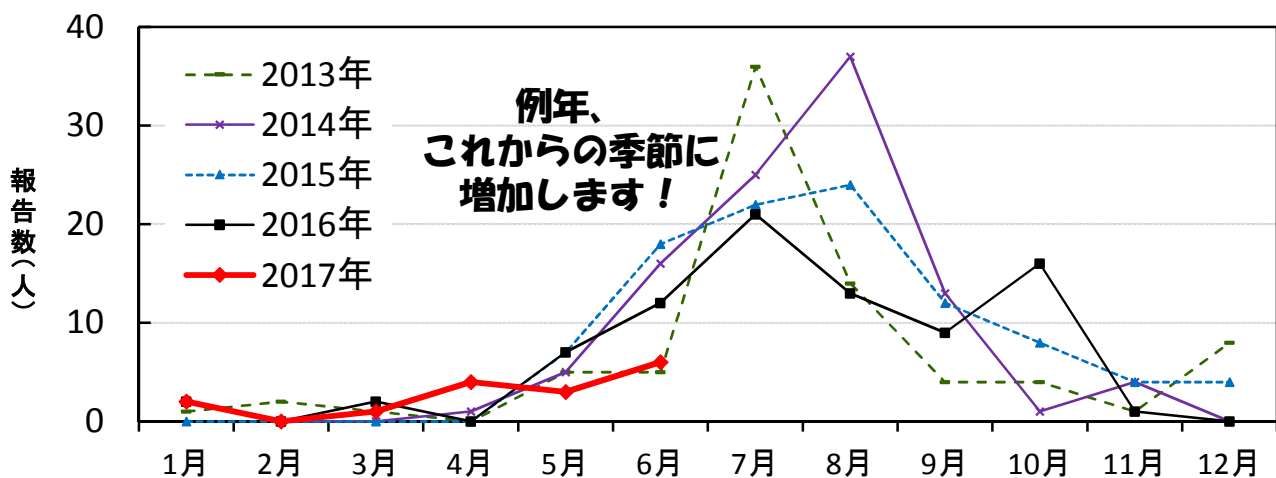


# 腸管出血性大腸菌感染症 に 注意しましょう

## ◆ どんな病気？

- 腸管出血性大腸菌（O157など）が口から体中に入ることでおこります。
- 潜伏期間は3～9日で、主症状は下痢・腹痛・血便・発熱などです。
- 抵抗力の弱い乳幼児や高齢者が感染すると、溶血性尿毒症症候群（HUS）になり重症化することがあります。
- 2017年は16例の届出があり、うちHUSを発症したのは3例でした。



## ◆ 予防対策は？

腸管出血性大腸菌に汚染された食品を介して感染します。  
また、少ない菌でも発症することがあり、患者の便を介して家族などへ感染が拡大することもあります。

- 肉の生食は避け、十分に加熱調理して食べましょう（中心温度75度で1分以上）。  
生肉を扱う箸と食事用の箸を使い分けましょう。
- 生野菜はよく洗って食べましょう。
- 調理器具の洗浄と消毒をしっかりと行いましょう。
- 下痢や腹痛などの症状がある人は、医療機関を受診しましょう。
- 症状のある人は、家族と一緒に入浴せず最後に入りましょう。  
浴槽に入る時には石けんで体を洗ってから入りましょう。  
また、入浴後は水を抜いて浴槽を洗いましょう。
- 症状のある人の下着は、塩素系漂白剤でつけ置き消毒し、  
家族のものとは分けて洗濯しましょう。洗濯後は、洗濯機の  
ゴミ取りネットを忘れずに掃除しましょう。
- 手洗いを励行しましょう。



手洗いは大切だよ

群馬県のマスコット  
「ぐんまちゃん」

★ 腸管出血性大腸菌感染症についての詳しい情報: <http://www.pref.gunma.jp/02/p07110049.html>

\* この情報に関するお問い合わせ先: 群馬県感染制御センター(群馬県衛生環境研究所)

TEL: 027-232-4881 E-mail: kansenseigyo-c@pref.gunma.lg.jp